

力と先進的な試みにより、今日に至っていると承知いたしております。

京都大学は我が国で最も独創的な研究成果を挙げ、ノーベル賞受賞者をはじめ幾多の有為な人材を輩出してこられた大学でございます。百年の歴史の中で蓄積されてきた550万冊に及ぶ資料のうち京都大学固有のものや最新の研究成果などを電子化し、蓄積・発信をし、国内のみならず海外でも大いに役立っていただけることを強く期待申し上げます。

最後に電子図書館システム構築に至るま

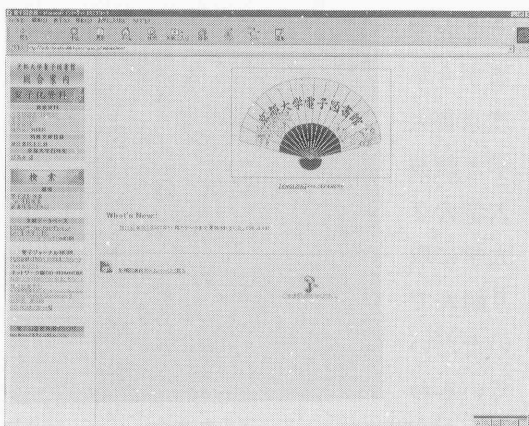
で長尾学長、万波図書館長をはじめ学内外の関係者の方々の並々なご尽力に対しまして深く敬意を表しますとともに、京都大学図書館が学内外の諸組織との連携のもとに電子図書館的機能の充実強化を一層図られ、21世紀の高度情報化社会での新しい大学図書館のモデルとして着実に実績を挙げられること心から祈念いたしまして、簡単ですがお祝いのことばいたします。

本日は大変おめでとうございました。

(はやし かずお)

電子図書館システムデモンストレーション

新しく稼働を始めました電子図書館システムで利用できるコンテンツと新しい機能の一部分について以下に紹介します。

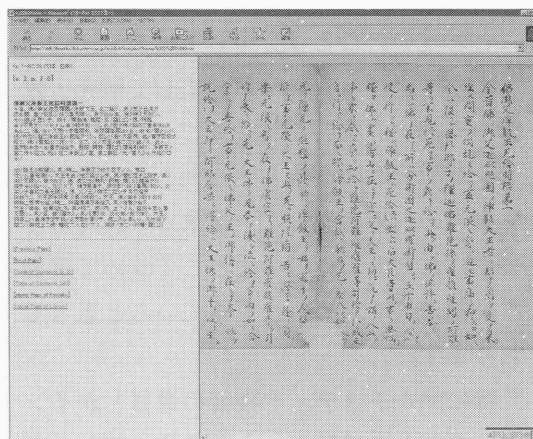


トップページ

まず、コンテンツには、情報発信と情報配信という二つの側面があります。

情報発信においては、本学が所蔵している貴重資料、および本学で生産される学術情報が対象です。これらの資料・情報の電子化を進め、「京都大学エンサイクロペディア」として提供してゆくことが目標です。導入されたシステムでは、画像データ10万

画像以上、文字テキストデータ1,000万文字以上が蓄積できます。



貴重資料画像データベース

すでに公開しているコンテンツの代表的なものを見てみますと、国宝「今昔物語集(鈴鹿本)」や重要文化財「古今集註」(古今和歌集)などの貴重資料があります。これら貴重資料は、現時点で、国宝1点、重要文化財5点、貴重書20点の合計26点の画像データがあり、画像種類数約10,000種、20,000画像のデータ量になります。また、新たに維新資料画像データベースの提供を

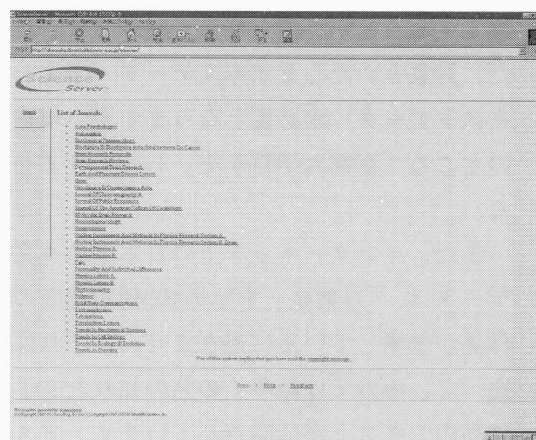
開始いたしました。明治維新に活動した志士たちの遺品・墨跡類を、幕末維新の長州藩の志士で後に子爵となった品川弥二郎が、全国に呼びかけて「尊攘堂」に収集した資料群の画像データです。画像は6,500種類ほどあります。

一方、本学で生産される学術情報としては、現在刊行が継続しております「京都大学百年史：部局史編」の最初の1冊のうち、半分までデータの形成が進んでいます。これについては今後とも電子化を進める予定です。

次に、学内研究室向けに、情報配信するコンテンツを紹介します。

すでにネットワークに提供しております文献情報として、医学・生命科学文献情報の Medline、地質学・地球科学文献情報の GeoRef、心理学・行動科学文献情報の PsycLit などがありますが、新たに 4 種類のデータベースの提供を開始しました。我が国で刊行されている雑誌約 5,500 種の目次を集めた「雑誌記事索引(週及、カレント)」、戦後 50 年の朝日新聞記事索引である「ASAX」、最も信頼のおける英語大辞典「Oxford English Dictionary」、日本語辞書として定評のある「広辞苑」です。なお、これら CD-ROM を媒体とします文献情報の中には、ネットワーク提供ができないものも多数あります。附属図書館 1 階の 6 台のパソコンでしか利用いただけないものが、全部で 31 タイトルありますが、そのリストをメニューに付加しました。

さて、次のコンテンツは電子ジャーナルです。3年間程度の試行提供サービスとして35タイトルが提供される予定です。現在は刊行頻度の関係から33タイトルが利用可能です。この電子ジャーナルは、皆さんが専門分野のキーワードを登録しておいて、ジャーナルが新しく追加されますと、登録しておいたキーワードで検索を実行し、そ



電子ジャーナル初期画面

の結果該当するものがあれば、その論文を配信することも可能です。

次に、電子図書館専用クライアントが備えます新しい機能について紹介します。導入メーカーの富士通から提案されたソフトウェア「InfoBrick」の機能がそれです。フル・テキストで蓄積された本文データについて使用できる機能です。まず、横書きのテキストを縦書きに直すことが簡単に行えます。そして、画面上で実際に書物のイメージでページをめくってゆく機能があります。これは、「Book Metapher」と呼んでいます。また、このテキストの一部分に付箋を張り付けておき、後でその付箋をたどることができる機能や、付箋部分にメモをつける機能、さらに、開発中ではありますが、本文データの好みの部分を指定して、朗読させる機能や、その部分を機械翻訳させる機能などが備わりました。

これらの新しい機能は、現在のところ、電子図書館専用クライアントからしか利用できませんが、今年の秋頃には、お手元のパソコンの汎用的なネットワーク・ブラウザからも利用可能となる予定です。

もう一つ本文検索について新しい機能があります。OPACと同じように書誌の検索も可能ですが、この検索では、OPACとは異なり、検索語の同義語や訳語についても

検索することが可能となっております。ただ、対象いたします本文データ（全文テキストデータ）が必要となりますが、現在のところ「京都大学百年史」しかありません。

また、インターネット上の日本語の本文データは、「万葉集」を始め400種類程度の作品が登場しているに過ぎません。これに比べて、海外では数多くの名の知れた文学作品のテキストが公開されています。アメリカのゲーテンベルク・プロジェクトでは、1,000点の作品が公開されていますし、ベルセウス・プロジェクトでも数百点が公開されています。

このように日本文学のテキストの作成は、資料電子化において、今後取り組むべき方向性を示しているのかも知れません。日本語テキストの作成においては、コード化されていない文字の処理やルビの問題など技術的に解決されなければならない問題もありますが、一方で、専門家による翻刻作業も必要となってまいります。

日本語テキストだけでなく、「京都大学エンサイクロペディア」の構築には、専門分野の諸先生方の協力が必要となります。より一層のご協力・ご支援をお願いいたします。

（図書館専門員 片山 淳）

電子図書館を含む新システム関連業務日誌

- 2/6 総合評価基準に関する説明会（文部省政府調達班）
- 2/12～ 仕様書（案）改訂作業 2/18～仕様策定委員への説明
- 2/26 意見招請のための官報公告（仕様書（案）配布開始）
- 3/12 意見招請のための説明会[出席メーカー]ビジュアルテクノロジー、リコー、日本サンマイクロシステムズ、日本電子計算、NTT、富士通、日商エレクトロニクス、日商岩井インフォコムシステムズ、ヒューコム
- 3/19 意見招請締切[提出メーカー]日本電子計算、京セラ、日商岩井、NTT、富士通
- 3/26 仕様策定委員会（最終回）
- 4/17 仕様書について文部省への説明
- 4/中旬 政府調達に係る官報公告原稿経理部へ
- 4/21 研究開発室会議（平成9年度第1回）
- 5/初旬 技術審査職員委嘱（工学研究科電子通信工学、大型計算機センター、総合情報メディアセンター）
- 5/8 次期システム運用WG：調整グループ会議（1）
- 5/16 政府調達に係る入札公告：仕様書について文部省より改訂の指示
- 5/21 次期システム運用WG全体会議：運用グループ会議（第1回）
- 5/23 附属図書館商議会（平成9年第1回）、仕様書確定 5/26仕様書配布開始
- 6/4 次期システム運用WG：調整グループ会議（2）
- 6/6 入札説明会[出席メーカー]日本サンマイクロ、JIP、日本オラクル、日商岩井、日商エレクトロニクス、伊藤伊、富士通、ドットウェル
- 6/19 電子図書館専門委員会（第1回）
- 6/30～ 技術審査に係る担当教官への説明
- 7/2 次期システム運用WG：調整グループ会議（3）